

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	3
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトーこれから開催する「小さな自然再生」現地研修会のご案内

本ニュースレター前号でご案内の通り、本年 4 月に「小さな自然再生」現地研修会の開催希望地を公募した結果、全国より 7 件のご応募を頂き、全応募者との開催に向けたオンライン形式での意見交換面談を 5 月までに終了致しました。

その内 2 件については、5 月に福井県を流れる北川上流域・河内川にて、また 6 月には新潟県を流れる古太田川（次頁開催報告参照）にて現地研修会を無事開催致しました。

また残り 5 件についても、今年度または次年度以降の開催に向けて企画調整を応募関係者と進めております。

この内、今年度の企画概要及び開催日が決定した 2 件について開催予告として事前案内させて頂きます。

本現地研修会は、行事を開催すること自体が目的ではなく、本研修会がきっかけとなり、地域の様々な主体が連携し、生物の生息・生育・繁殖の場が保全・再生され、さらに取組みを通じて地域が更に元気になっていくことを主な狙いとしています。このため、上記の目的に合致する研修行事となるよう、応募者との丁寧な企画調整を進めて参ります。

(JRRN 事務局・和田彰)

第 25 回「小さな自然再生」現地研修会 in 滋賀県長浜市・大浦川

企画調整中



- ◆開催： 2024 年 11 月 2 日（土） ※時間調整中
- ◆場所： 滋賀県長浜市・大浦川
- ◆共催： ONE SLASH、琵琶湖環境科学研究センター、「小さな自然再生」研究会、JRRN 他 ※共催団体調整中

大浦川のエコアップに向けた小さな自然再生の実践（手づくり工事）を通じて、地域の生存戦略となるネイチャーポジティブな活動を持続的に展開するため、さらには琵琶湖湖北地区の魅力を参加者とともに学び合います。

第 26 回「小さな自然再生」現地研修会 in 兵庫県上郡町・千種川

企画調整中



- ◆開催： 2024 年 11 月 3 日（日） ※時間調整中
- ◆場所： 兵庫県上郡町・千種川
- ◆共催： 千種川圏域清流づくり委員会、「小さな自然再生」研究会、JRRN 他 ※共催団体調整中

河道内の分水路における小さな自然再生の実践を通じて、分水路を生物の生息・生育・繁殖の場とするともに、地域の環境教育や川遊びの拠点としていくためにできる取組を参加者とともに見試します。

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト – 『第 24 回「小さな自然再生」現地研修会 in 新潟県新発田市・阿賀野川流域古太田川』開催報告

2024 年 6 月 30 日（日）に、第 24 回「小さな自然再生」現地研修会を新潟県新発田市の阿賀野川流域古太田川にて開催致しました。

【主催】 下興野自治会、早稲田大学景観デザイン研究室、
「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】 新発田市、豊浦郷土地改良区、NPO 加治川ネット 21、公益財団法人リバーフロント研究所

【会場】 新潟県新発田市下興野 <座学：長願寺本堂（登録有形文化財）／現地：古太田川>

【参加者】 35 名

本研修会では、手づくりのカワドや護岸など今も残る素敵な地域の宝を楽しみながら保全・継承していくために何ができるのかについて、魚や水生植物など生き物の視点から参加者で学び合い、古太田川の多様な魅力を再発見しました。

研修会を通じて、これまで地元で取組まれてきた江浚い等が古太田川固有の環境を保全し、さらには水質浄化等の効果もあることを参加者で共有し、地元自治会、周辺地域の団体、さらに早稲田大学景観デザイン研究室による次なる展開が楽しみです。（令和 6 年度河川基金助成事業）

第 24 回「小さな自然再生」現地研修会 プログラム

（10:00～11:00）古太田川を巡る @古太田川

- 古太田川沿いを歩きながらカワドや護岸を観察し、生き物の視点から自然環境を学びました。

（11:00～12:30）座学研修 @長願寺本堂

- 開会挨拶
- 古太田川のステキを地域の力で守るために
（佐々木葉：早稲田大学景観・デザイン研究室）
- 川の環境と魚類の関係（白尾豪宏／和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）
- 川の環境と水生植物の関係
（鈴木敏弘：公益財団法人リバーフロント研究所）

（12:30～13:30）昼食

（13:30～15:30）小さな自然再生の実践 @古太田川

- 古太田川に生息・生育する魚や水生植物を観察しながら、保全・再生のためにできる工夫を学びました。

※技術指導：山下博康（株式会社ウエスコ）／鈴木敏弘（リバーフロント研究所）

（16:00）閉会



（JRRN 事務局・和田彰）

8月



あの日のあの川 リレー日記 ～第75話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第75話主人公 宮下春樹

（筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：奈良県秋篠川）

「ただ魅せられて」

いつのこと？： 小学校2年生

どの川？： 一色川（岐阜県 庄川水系）

曽根さんからバトンを受け取りました。白川研究室所属の宮下春樹です。今回は、私の出身地域の河川ではありませんが、思い入れの深い川について紹介したいと思います。

私は、幼少期から両親に連れられて、東北や中部など様々な地域のキャンプ場に足を運び、山や湖といった自然に触れて育ちました。その多くは幼少期ゆえにあまり覚えてはいませんが、小学校2年生の8月に訪れた岐阜県高山市の一色の森キャンプ場は、15年経った今でも忘れることはできません。一色の森キャンプ場には、キャンプサイトのすぐ近くに一色川という小さな溪流が流れています。初めて溪流を身近に眺めた私は、落ち葉の降り積もった腐葉土の香りとひんやりとした空気、ミズナラの木々からこぼれる木漏れ日、さえずる小鳥と虫の声、そして涼やかにきらめく水の流れ、その全てに魅せられました。その日私は溪流に一目惚れをしたのです。キャンプの期間中、私は父の缶ビールを冷やすため、たき火の松ぼっくりを拾うためと、何かと理由をつけては小川に赴き、流れを見つめて、水をすくい、手をゆすぎ、また眺め、兄姉に呼び戻される、そういった時間を過

ごしました。また、そのキャンプでは渓流釣りも体験しました。私は上手く釣れなかったものの、家族が釣ったドジョウやヤマメをバケツの中で眺めたり、岩場を跳び回ったりするなど、渓流を全身で楽しんだ記憶があります。これらの思い出は今なお自分の中で息づき、風景や匂いを鮮やかに思い出することができます。

以降の私はずっと川に魅せられてきました。一色の森キャンプ場には足を運ぶよう何度も父に呼びかけ、一度だけ再訪ができませんでした。そのほか山を歩く際にも、どこかへ旅行へ行く際にも、川の気配を感じては眺め、水に触れ、場合によっては足を浸け、ひたすら川に親しんできました。高校生を過ぎ、1人で旅行が出来るようになってからも、必ず訪れた地域の川を眺め、心を躍らせ、その流れに思いを馳せるようになりました。

川は、自然と人が最も多く交流する場だと考えています。その形は稲作の水張りであったり、納涼の川床であったり、屋形船の川下りであったりするでしょう。川を通じた自然と人との交流がよりよいものになるように、いま私は白川先生のもとで研究をおこなっています。今後の人生も、少なからず河川に目を向けながら生きていくと思います。誰かの生き方が定まってしまうほど劇的な出会いでなくとも、1人でも多くの人々が川に親しみ、よりよい思い出を持てるように、これからも心を尽くしていきたいと思います。

(次は芦村さんにバトンを託します)

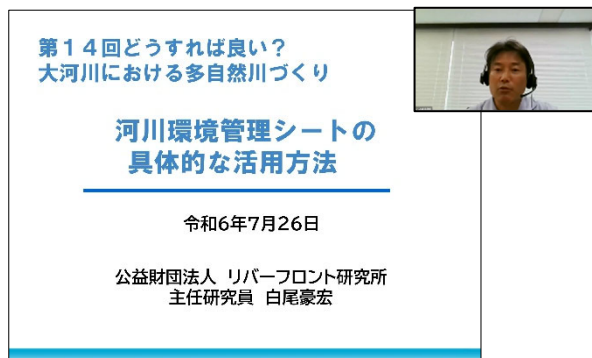
「リバフロサポートセンター」からのお知らせ *RiverFront Support Center*

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第 14 回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は 10 月頃、開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：渡邊祐介）

■第 14 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第 14 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和 6 年 7 月 26 日（金）に開催しました。

第 14 回目は、「Q4-2 河川環境の改善に向けた河川環境管理シートの活用方法について、具体的な事例を交えて教えてください」に関連して、「河川環境管理シートの具体的な活用方法」と題して公益財団法人リバーフロント研究所の白尾豪宏主任研究員からご紹介いただきました。

参加申込者は、行政関係者が約 3 割、コンサルタント関係者が約 6 割で全体の約 9 割を占めており、合計で 404 名の方々に参加申込いただきました。

また、当日は河川環境管理シートを作成する上での疑問点や河川環境目標に向けた河川環境管理シートの活用方法等について合計 16 個の質問をいただきました。参加者の皆様には活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。

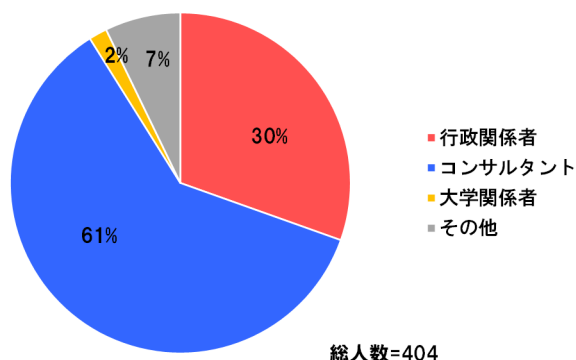


図 参加申込者の職種分類

＜第 14 回 ウェブセミナー開催概要＞

- 開催日時：令和 6 年 7 月 26 日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：河川環境管理シートの具体的な活用方法
- プログラム：
 - ① 河川環境管理シートの具体的な活用方法
講演者：公益財団法人リバーフロント研究所
主任研究員 白尾 豪宏
 - ② 意見交換
- CPD：1.0 単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は 10 月頃開催予定で調整中です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

次の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

令和 6 年 7 月 26 日に、令和 6 年 7 月改訂版が公開されました。今回の改定では、治水と環境を一体化させた川づくりに向けて、河川環境管理シート（Q4-2）、高水敷掘削・下げ（Q5-2）、河道内樹林再繁茂抑制（Q8-2）を中心に、近年の研究成果や事例を踏まえ、内容の充実を図っています。

※令和 6 年 7 月 26 日報道発表

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000239.html

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第32回「リバーフロント研究所 研究発表会」(9/13開催)

『第32回リバーフロント研究所研究発表会』を開催いたします。

昨年同様、当日会場に来られない方には、後日当研究所ウェブサイトにて当日の様子をオンデマンド配信します。(開催日より1か月後を目途に配信する予定です。詳細が決まりましたら当研究所ウェブサイトにてご案内いたします。)

今回は、京都大学大学院地球環境学堂の山口敬太准教授より『気候変動適応策としての「水と緑のまちづくり」の展望：海外事例からの学び』のテーマでご講演いただきます。その後、当研究所の研究員による研究成果の発表をいたします。

ご多忙とは存じますが、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

■日時：2024年9月13日(金) 13:00~17:25

■場所：日本橋社会教育会館 8階ホール(東京都中央区)

■参加費：無料

◆詳細及び参加申込等は以下参照

https://e-ve.event-form.jp/event/81982/32th_kenpatsu

第32回 リバーフロント研究所研究発表会 プログラム

日時：令和6年9月13日(金) 13時00分~17時25分

ところ：日本橋社会教育会館 8階ホール(日本橋小学校等複合施設)
(東京都中央区日本橋人形町1丁目1番17号)

- ・開会の挨拶 代表理事 塚原 浩一 13:00~13:05
- ・来賓の挨拶(敬称略) 13:05~13:10
.....国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長 小島 慎(予定)
- ・基調講演(敬称略) 13:15~14:25
気候変動適応策としての「水と緑のまちづくり」の展望：海外事例からの学び
.....京都大学大学院地球環境学堂 准教授 山口 敬太
(休憩 14:25 ~ 14:40)
- ・研究発表
 - 1. 舟運の基礎的調査と今後に向けた予備的考察 14:40~15:05
.....水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史
 - 2. 小さな自然再生から河川環境を学ぶ—職員研修支援— 15:05~15:30
.....水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 和田 彰
(休憩 15:30 ~ 15:45)
 - 3. 河川生態学術研究会による政策提言の概説とポイント 15:45~16:20
.....自然環境グループ 主任研究員 内藤 太輔
 - 4. 河川環境の定量的目標検討に向けた考え方—実河川を事例として— 16:20~16:55
.....自然環境グループ 主任研究員 白尾 豪宏
 - 5. 治水と環境が調和した川づくりに向けて 16:55~17:20
.....主席研究員 西村 雄希
- ・閉会の挨拶 業務執行役 内藤 正彦 17:20~17:25

※発表タイトルは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 応用生態工学会 第27回さいたま大会 公開シンポジウム『ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現に向けた応用生態工学の役割』(9/20開催)

2023年3月には「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定され、2024年4月にはネイチャーポジティブ法とも言える「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」が成立し、今後は関係省庁が連携し、法に基づく基本方針を策定することになります。

こうした国内の大きな動向を踏まえて、最新の情報を共有するとともに、今後応用生態工学が取り組むべきこと、特に現場でネイチャーポジティブを支える技術体系などについて改めて議論し、提案を行うことを目的として開催します。

■日時：2024年9月20日(金) 15:00~17:30

■場所：埼玉会館 小ホール(埼玉県さいたま市) 及び zoom ウェビナー

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2024/content/public_symposium

：話題提供者

笹淵 弘平氏 (環境省自然環境局自然環境計画課保全再生調整官)

『ネイチャーポジティブの実現に向けた国の取り組み』

新屋 孝文氏 (国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境調整官)

『生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方』

荒井 理恵氏 (埼玉県環境部みどり自然課野生生物担当主幹)

『埼玉県とネイチャーポジティブ—埼玉県生物多様性保全戦略を中心に—(予定)』

森 照貴氏 (国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター長)

『ネイチャーポジティブを支える最新技術—河川を例として—(仮題)』

幸福 智氏 (いであ株式会社国土環境研究所地域共創推進部上席研究員)

『ネイチャーポジティブの評価と促進に関する技術』

：コーディネーター

田中 規夫氏 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>